

薬学研究所 研究活動状況(平成29年度)

著書

担当区分	タイトル	出版社	出版日	著者
単著	感染症対策を中心とした医療連携	薬事新報社	2017. 5. 4	辻村美保
単著	リウマチをもっと知ろう リウマチの用語 8 ステロイド・非ステロイド性抗炎症薬	日本リウマチ友の会	2017. 10. 11	辻村美保
共著	無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか？	男女共同参画学協会連 絡会	2017. 8	大坪久子, 小川温子, 澤崎達哉, 松島綾美
単著	Understanding Unconscious Bias	EPMEWSE (RENRAKUKAI)	2018. 1	Hisako Ohtsubo (translation)
共著	無意識のバイアス=女性のキャリア形成に あたえるインパクト-	笹川平和財団	2018. 3	大坪 久子, 田中 順子 共訳
分担執筆	がん薬物療法副作用管理マニュアル	医学書院	2018. 3. 15	葉山達也(他26名)

論文

単著・共著区分	論文名	掲載雑誌	巻	号	ページ	出版日	著者
共著（第一著者以外）	Effects of intranasally dosed posaconazole on fungal load and biomarkers in <i>Aspergillus fumigatus</i> infected immunocompromised mice	Mycoses	60	11	728-735	2017. 11	Genki Kimura, Takahiro Nakaoki, Yuki Nishimoto, Yuto Suzuki, Garth Rapeport, Pete Strong, Kazuhiro Ito, Yasuo Kizawa
共著（第一著者以外）	Identification of two phenanthrene derivatives from Australasian allied species in genus <i>Dendrobium</i> .	Chemical and Pharmaceutical Bulletin	66	6	642-650	2018. 6. 1	Tomoko Takamiya, Saki Kitamura, Shunichiro Suzuki, Nao Shioda, Yoshifumi Matsuo, Kento Murase, Yuka Kaiho, Yurika Tsurumaki, Yukiko Fujiwara, Mayumi Sone, Tomomi Machida, Ryohei Matsumoto, Aoi Miyamoto, Dai Hirose, Megumi Furukawa, Mitsuko Makino, Keiichi Matsuzaki, Susumu Kitanaka, Tomohisa Yukawa, Hiroshi Iijima
共著（第一著者かつコレスポンディングオーサー）	ステロール・トリテルペン誘導体のがん予防に関する研究	日本予防医学会雑誌	12	1	10月15日	2017. 10. 31	安川 憲, 飯田 隆, 藤本康雄, 松崎桂一
共著（第一著者かつコレスポンディングオーサー）	ヒマワリ花卉のがん予防に関する研究	日本予防医学会雑誌	12	1	16-20	2017. 10. 31	安川 憲, 宮脇 海, 野伏康仁, 藤本康雄, 飯田 隆, 松崎桂一
共著（第一著者かつコレスポンディングオーサー）	ブラジル産プロポリスのメタボリックシンドローム予防効果	日本補完代替医療学会誌	14	2	77-82	2017. 10. 1	安川 憲, 津田有梨香, 針ヶ谷哲也, 野伏康仁, 堤 重敏, 松崎桂一, 岸川幸生

共著（第一著者以外）	Triterpenoid glycosides from <i>Ladenbergia hexandra</i> Klotzsch	<i>Phytochemistry</i>	136		147-155	2017. 4. 1	Furukawa, Megumi; Kamo, Satoshi; Makino, Mitsuko; Kurita, Masahiro; Tabata, Keiichi; Matsuzaki, Keiichi; Suzuki, Takashi;
共著（第一著者以外）	Prediction Model of Serum Lithium Concentrations	<i>Pharmacopsychiatry</i>	Vol. 51	No. 3	82-88	2017. 08. 02	Kazunari Yoshida, Hiroyuki Uchida, Takefumi Suzuki, Masahiro Watanabe, Nariyasu Yoshino, Hitoshi Houchi, Masaru Mimura, Noriyasu Fukuoka
共著（第一著者以外）	Gender Segregation on Campuses: A Cross-Time Comparison of the Academic Pipeline in Japan, South Korea, and Taiwan	<i>International Journal of Gender, Science and Technology</i>	Vol. 9	No. 1	p3-p20	2017	Yen-Wen Peng, Ginko Kawano, Eunkyong Lee, Li-Ling Tsai, Kae Takarabe, Miwa Yokoyama, Hisako Ohtsubo, *Mariko Ogawa
単著	書籍紹介 WHAT WORHS : Gebder Equality by Desugn ny Iris Bohnet	<i>Polymorphia</i>	Vol. 3		113 - 118	2018. 3. 31	大坪 久子
共著（第一著者以外）	一包化調剤薬の鑑査業務における刻印錠と両面印字錠の比較	<i>日本病院薬剤師会雑誌</i>	Vol. 54	No. 4	433-439	2018. 4. 1	松元一明, 大森栄, 石井伊都子, 川久保孝, 神田博仁, 鈴木貴明, 横山威一郎, 中澤一純, 木津純子
共著（第一著者以外）	Panitumumabによる低マグネシウム血症の重症化にかかわる危険因子の検討	癌と化学療法	Vol. 45	No. 10	1435-1440	2018. 10. 1	中澤佑介, 安藤尚美, 原田大, 北村正樹, 相羽恵介, 川久保孝

共著 (第一著者)	A clinical prediction model for infusion-related reactions to rituximab in patients with Bcell lymphomas	International Journal of Clinical Pharmacy	Vol.39	No.2	380-385	2017.4	Tatsuya Hayama. Katsuhiko Miura. Akihiro Uchiike. Masaru Nakagawa. Daisuke Tsutsumi. Masashi Sakagami. Yoshikazu Yoshida. Masami Takei
共著 (第一著者)	Optimal timing for pegfilgrastim administration in Japanese breast cancer patients receiving intermediate-risk chemotherapies.	International Journal of Clinical Pharmacy	Vol.40	No.5	997-1000	2018.1	Tatsuya Hayama. Kenichi Sakurai. Katsuhiko Miura. Shinsaku Washinosu. Shinya Tsuboi. Akihiro Uchiike. Yoshikazu Yoshida. Masami Takei
共著 (第一著者以外)	Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Meloxicam in East Asian Populations: The Role of Ethnicity on Drug Response.	CPT Pharmacometrics Syst Pharmacol.	Vol.12	No.6	823-832	2017.12.27	Aoyama T. Ishida Y. Kaneko M. Miyamoto A. Saito Y. Tohkin M. Kawai S. Matsumoto Y.
共著 (第一著者)	Lack of ethnic differences of moxifloxacin and metabolite pharmacokinetics in East Asian men.	J Pharmacokinetic Pharmacodyn.	Vol.45	No.2	199-214	2017.11.23	Kaneko M. Aoyama T. Ishida Y. Miyamoto A. Saito Y. Tohkin M. Kawai S. Matsumoto Y.

学会発表

発表課題名	学会名（開催地）	発表日	発表者
口腔内崩壊錠に適用するための薬物放出制御機能を有する薬物微粒子の調製と評価	第27回日本医療薬学会年会（千葉）	2017. 11. 4	池田有希、池内由里、村永 綾、太田美鈴、小林文香、大貫義則、日高慎二、大西 啓
日英の薬剤師教育プログラムの違いに関する研究（海外派遣報告）	第28回 日本大学薬学部学術講演会（船橋）	2017. 11. 4	荒川 基記、James F. Brown、Dariusz C. Górecki、Jane Portlock、荒川 直子、日高 慎二
SM散®を利用した胃内pH上昇時のマーメッドプラス®投与方法の一案	第6回日本静脈経腸栄養学会関東甲信越支部学術集会（甲府）	2018. 10. 28	浦野 敦、高嶋 加奈子、佐藤 悠太、早川 祥子、木村 道明、金居 理恵子、瀬尾 恵理、山浦 一恵、治田 實之、川名 秀俊、大平 征宏、龍野一郎
胃内pHを上げる薬剤と粘度可変型経腸栄養剤マーメッドプラス®の相互作用とその回避について	第28回日本医療薬学会年会（神戸）	2018. 11. 23-11. 25	浦野 敦、高嶋 加奈子、佐藤 悠太、早川 祥子、木村 道明、金居 理恵子、瀬尾 恵理、山浦 一恵、治田 實之、川名 秀俊、大平 征宏、龍野一郎
メチル化ヒ素化合物はcaspase-8を介してアポトーシスを誘発する	第44回 日本毒性学会学術年会（横浜）	2017. 7. 10	下田 康代、黒澤 英俊、加藤 孝一、畑明寿、圓藤 陽子、圓藤 吟史、山中 健三
ジメチルヒ素化合物によるミトコンドリア経路のアポトーシス誘発機構について	第23回ヒ素シンポジウム（つくば）	2017. 12. 7	下田康代、黒澤英俊、加藤孝一、畑明寿、山中健三
ジメチルモノチオアルシン酸の代謝過程で生成する多様な活性代謝物によるアポトーシス誘発について	日本薬学会 第138年会（金沢）	2018. 3. 26	下田康代、黒澤英俊、加藤孝一、畑明寿、山中健三

TLR3によるPTEN発現抑制を介したコルチコステロイド治療抵抗性の誘導	第138回 日本薬理学会 関東部会 (東京)	2018. 3. 10	西本 裕樹、岩本 一平、大出 はるか、 勝又 一葵、鈴木 彩加、久住 健太郎、 枝 さゆり、木村 将大、上田 敬太郎、 木村 元気、益子 崇、木澤 靖夫
ステロイド治療抵抗性を示す種々の呼吸器疾患モデルに対する抗TNF- α 抗体の作用	日本大学 学部連携研究推進シンポジウム (東京)	2017. 11. 25	西本 裕樹、木村 元気、木澤 靖夫
ラン科セッコク属植物の二次代謝産物の化学的多様性解析 (1)	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018. 3. 27	草薙真弓、金子実樹、高宮知子、北中進、飯島洋
ベトナム産薬用植物 Piper lolot の成分探索	日本生薬学会第64回年会 (千葉)	2017. 9. 9	古川めぐみ、森谷貴史、野口慎也、工藤あかね、牧野三津子、矢作忠弘、松崎桂一
真菌 Pleosporales sp. 由来新規化合物の筋萎縮性側索硬化症治療薬としての可能性	日本薬学会第138回年会 (金沢)	2018. 3. 26	野内雄太、古川めぐみ、広瀬 大、牧野三津子、松崎桂一、大崎愛弓、草間國子
ベトナム産薬用植物 Piper lolot の成分探索	日本薬学会第138回年会 (金沢)	2018. 3. 26	古川めぐみ、森谷貴史、野口慎也、工藤あかね、牧野三津子、矢作忠弘、松崎桂一
Triamcinolone acetonide 21-acetate の安定性及び抗炎症作用について	日本薬学会第138回年会 (金沢)	2018. 3. 26	中村 絢、橋本 秀樹、立川 孟、蓑輪 佳子、中村 義昭、中嶋 順一、安川 憲、松崎 桂一、鈴木 仁、猪又 明子、守安 貴子

<i>Estimation of Maximal Daily Dose to Avoid Adverse Reaction of Voriconazole - A Preliminary Study for Japanese Recipient in Stem Cell Transplantation -</i>	Congress of the European Society for Organ Transplantation (ESOT) (Barcelona)	2017. 9. 13	Kumiko Tani, Noriyasu Fukuoka, Osamu Imataki, Kazunori Yamaguchi, Nariyasu Yoshino, Koichi Takahashi, Takahiro Motoki, Masato Kaji, Shinji Kosaka1., and Hitoshi Houchi.
～Beyond the Bias and Barriers～ 女性活躍推進のこれからを考える	立命館大学平成29年度 文部科学省科学技術 人材育成費補助事業 セミナー	2017. 7. 12	大坪久子
Unconscious Bias 無意識のバイアスとは何か？	静岡大学男女共同参画 推進室 女性管理職育 成研修	2017. 7. 6	大坪久子
Beyond the Bias and Barriers - 多様な人材を活用するための人事選考のあり方-	山形大学 平成29年度 文部科学省科学技術人 材育成費補助事業セミ ナー	2017. 6. 28	大坪久子
大規模アンケート調査の目的・意義	第15回 男女共同参画 学協会連絡会シンポジ ウム	2017. 10. 14	大坪久子
自然科学系女性大学教員登用の動向	日本大学学部連携研究 推進シンポジウム	2017. 11. 10	佐藤 恵, 平田典子, 酒井秀嗣, 大坪久子
全国薬学部における教員と学生の男女比	日本大学学部連携研究 推進シンポジウム	2017. 11. 10	大坪久子

無意識のバイアスーUnconscious Biasーをご存知ですか？	日本大学薬学部平成29年度 第1回男女共同参画意識啓発講演会	2017. 11. 30	大坪久子
全米科学財団（NSF）による女性研究者支援事業の流れと成果	科学技術社会論学会 第16回年次研究大会・第3セッション	2017. 11. 28	大坪久子
ダイバーシテイ推進に向けた日本の課題抽出と提言・支援事業への反映	I-URIC／4 機構連携男女共同参画シンポジウム	2017. 11. 29	大坪久子
Beyond the Bias and Barriers 無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか？	長崎大学 平成29年度長崎大学市民公開講座シンポジウム	2017. 12. 8	大坪久子
Beyond the Bias and Barriers 無意識のバイアス - Unconscious Bias - を知っていますか？	琉球大学ダイバーシテイ推進トップセミナー	2018. 1. 23	大坪久子
無意識の偏見	琉球大学 ダイバーシテイ研究環境イニシアチブ（特色型）中間報告シンポジウム	2018. 2. 19	大坪久子
無意識のバイアス - Unconscious Bias - と 女性活躍促進	大阪教育大学「ダイバーシテイ研究環境イニシアチブ（牽引型）」管理職研修	2018. 2. 21	大坪久子
Women in STEM Careers in Japan	ERN2018#2: GENDER EQUALITY IN RESEARCH & DUAL CAREERS	2017. 3. 8	Hisako Ohtsubo

無意識のバイアス - Unconscious Bias - と ダイバーシティ促進	第3回 タイバーン ティCHIBA 研究 環境促進コンソーシア ム連絡会 ミニレク チャー	2018. 3. 16	大坪久子
鼻腔内滞留性付与は水溶性低分子薬物ア テノロールの鼻腔を介した脳送達を促進 する	第34回 日本DDS学会学 術集会(長崎)	2018. 6. 20-21	齊藤 駿, 金沢 貴憲, 入山 友輔, 鈴木 直人, 鈴木 豊史
水溶性高分子の皮膚移行性にかかわる因 子の検討	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018. 3. 26	桑原宏樹, 今井美湖, 栗野みのり, 橋崎 要, 田口博之, 藤井まき子
水溶性高分子配合レシチン逆紐状ミセル の調製と皮膚移行に与える影響	日本薬学会第138年会 (金沢)	2018. 3. 28	藤井まき子, 橋崎 要, 石毛亜依, 岩淵 彩奈, 今井美湖, 田口博之
婦人科腫瘍に対するTC療法による過敏症 の因子解析	第7回 日本臨床腫 瘍薬学会 学術大会 2018年(横浜)	2018. 3. 17	堤 大輔、蒲谷 有望、葉山 達也、仲 尾 岳大、川名 敬、早坂 正敏、吉田 善一
体表面積の相違による制吐効果の検討	第7回 日本臨床腫 瘍薬学会 学術大会 2018年(横浜)	2018. 3. 17	内池 明博、上野 瀬奈美、飯塚 俊 介、藤代 健、東風 貢、葉山 達也、 吉田 善一
乳癌術前・術後補助化学療法に対する相 対用量強度の影響に関する研究	第10回 日本がん薬 剤学会 学術大会 2018年(東京)	2018. 5. 13	飯塚 俊介、葉山 達也、蒲谷 有望、 堤 大輔、大塚 英希、早坂 正敏、 櫻井 健一、吉田 善一